

THE
OSAKA PREFECTURAL
NAKANOSHIMA
LIBRARY

大阪府立中之島図書館

100th
Anniversary

文化・情報・教育の中心 水都大阪のシンボル中之島図書館

明治の初期、大阪には大阪博物場の図書室、大阪書籍館など、図書館らしきものはあったが、書籍館は明治21(1888)年経費節減で廃止されるなど、たいへん心細い状態であった。日本第二の都会である大阪にも設備の整った図書館を、と待望する声は多くなり、明治32年当時の菊池侃二知事は、府の教育五ヵ年計画の中で図書館新設を提案した。それを知った住友家第15代当主住友吉左衛門友純氏は、独力で図書館を寄付することを思い立ち、大阪府に申し出る。この申し出は府議会でも大きな反響を呼び、明治33年3月3日寄付採納の議案が可決され、その結果、建物のすべてと図書購入のための基金の寄贈をも併せ受けて、4年後の明治37(1904)年2月25日ついに開館の運びとなった。建館寄付記にあふれる吉左衛門氏の熱い願いは見事に結実して、図書館は大阪文化のシンボルとして日々にぎわい、利用者は当初の予想をはるかに越えて増え続けたためまもなく手狭となり、大正6(1917)年再び吉左衛門氏より寄付を受けて大正11年10月21日に左右両翼増築が完成、ほぼ現在見られるとおりの姿になった。以来幾星霜、大阪はもとより日本各地から学究の徒を迎え続け、平成16年2月に創立百周年を迎える。



開館当時の中之島図書館

完成した図書館は軒先の高さ49尺(14.85m)、中央丸屋根頂上まで77尺(23.33m)もあり、高層建築など皆無の当時、本を読むより建物を見物に来た人が多かったといわれている。



増築後の中之島図書館

手前、現在の大阪市役所の位置に見えるのは豊国神社、昭和36年に大阪城内に移転した。

歴史を伝える熱い思い

それは明治人の熱い思いから始まった…

中之島図書館の建設が進められていた当時、住友吉左衛門氏をはじめ初代館長の今井貫一氏、設計者の野口孫市氏はすべて30代、野口氏を援けのちに増築の設計を担当した日高胖氏は20代の若さであった。

気力みなぎる明治という時代にあって、彼らは大阪に文化の殿堂を築くため、並々ならぬ情熱を注ぎ、ついに格調高い「大阪図書館」を誕生させた。100年を経てなお現役の図書館、重厚な雰囲気漂わせる館内には新しい知識を求める人々が今も大勢訪れている。



第15代 住友吉左衛門友純氏
(1864-1926)

元治元年右大臣徳大寺公純氏の6男として誕生。総理大臣にもなった西園寺公望氏の実弟。明治25年住友家の養子となり、翌年その長女と結婚。大阪府に図書館を寄付しようと考えたのは37歳(明治33年)のこと。住友本社に臨時建築部を設け、建築史上に残る名建築として「大阪図書館」を明治37年に完成させた。



記念室に飾られている
住友吉左衛門友純氏の銅版レリーフ



初代館長 今井貫一氏
(1870-1940)

明治3年徳島県生まれ。大阪に出て勉学、東京帝国大を卒業後、函館の中学教員を勤め、30歳で愛知県立第三中学校長に就任。3年後の明治36年に大阪図書館長として着任。開館式で「図書館の事業たるや学校教育と相駢て個人の智徳を啓発し、社会の進運を促し、以て国利民福を増進するにあり」と述べ、熱意と誠意を持って事に当り、図書館の基礎を形成した。また、欧米の図書館を3年間にわたって視察、帰国後本格的な近代図書館の運営に当った。昭和8年まで奉職。



設計者 野口孫市氏
(1869-1915)

明治2年姫路生まれ。のちの三高から東京帝国大を優秀な成績で卒業、さらに大学院で耐震構造を研究。逓信省に勤務後、明治32年に住友に招かれ、約1年の欧米視察の後、臨時建築部の技師長となり、府立図書館を設計。大正4年工学博士の学位を受けたが同年10月病のため47才で長逝した。図書館以外に住友銀行各地支店、住友家須磨別邸、大阪倶楽部、石造りの心齋橋等を設計した。



設計者 日高胖氏
(1875-1953)

明治8年、東京府士族日高圭三郎為善の次男として出生。明治33年東京帝国大学卒業と同時に住友に入り、野口を援けて府立図書館建築工事に従事。大正の左右両翼増築の際には、技師長として故野口に代わって設計を担当し、野口の意匠を忠実に踏襲して完成させた。両翼の増築に伴い旧館内部を整備し、新旧館外観の調和を図るため屋根の垂鉛板葺を銅板葺に変更するなど大幅な増設改造工事も行っている。

大阪の建築様式を開花させた 名建築

明治初期の優れた洋風建築はその多くが外国人の手によるものであったが、明治20年代になると本格的な洋式建築を学んだ日本人建築家が活躍するようになり、30年代には模写の域を脱して自信にあふれた優れた意匠の作品が出現するようになった。中之島図書館の建物はその頃の作品のうちでも傑出したものである。芸術性ばかりでなく耐震構造など工学上でも先進的な配慮がなされた第一級の洋式建築であり、昭和49年 国の重要文化財に指定された。



中央ホール



二つの彫像

中央ホール壁面の左右の龕の中に銅製のギリシャ風青年像「文神像」「野神像」がある。ひろげた書物にまなざしを向けている像は「知性」を、左手を腰にあてがい引き締まった表情で前方を注視する像は「野性」を表現しているといわれている。この彫刻が置かれたのは、恐らく

大正11年左右両翼の建物増築の時、作者は「長崎平和祈念像」「晩鐘」などの作品で知られる北村西望氏である。

建館寄付記

ホール階段正面に掲げられた巨大な銅板額である。大阪府に図書館を寄付するにあたっての住友吉左衛門氏の壮大な心意気が読み取れる。重野安釋撰文、岡本隆徳書、東京美術学校（現東京芸術大学）鑄造、明治41年7月7日設置。



八哲

中央ホールギャラリー上部のフリーズ（中間帯）に、大正11年の増築時に本館を新しい八聖殿になぞらえて、階段正面上から右回りに菅原道真、孔子、ソクラテス、アリストテレス、シェイクスピア、カント、ゲーテ、ダーウィンの八哲の名を記した。この撰別は文学博士井上哲次郎氏によるもの。



棟札（置札）

棟札とは、建物の棟上げの時、工事の由緒、施主や施工者の氏名、年号、祈願文などを墨書した木の札で頭部は山形をなすものが多い。当館の棟札は平成10年9月21日正面玄関天井の変状調査時に発見され、平成11年5月13日付けで国の重要文化財に追加指定された。明治36年8月5日当館上棟式において奉じられたもので、表面中央に記載の「奉上棟大元尊神守護所」は主文といい、「大元尊神」は国常立尊または天御中主神のことをいう。「罔象女神」は水の神、「五帝龍神」は古代中国の伝説上の五聖君で、火難除けと聖君にあやかり博識たらんことを祈願したと思われる。施主住友吉左衛門の名に加え、工事顧問として辰野金吾博士、技士長野口孫市、技士日高胖、現場主任久保田小三郎などの体制で工事が進められたことがうかがえる。

増築寄付記

建館寄付記と同じく住友家の寄付により大正11年に左右両翼を増築した時の由来が記されている。永山近彰撰文、杉山令吉書。



大阪の精神を伝え 地域性を物語る所蔵品

江戸時代、大阪の地は町人学問所懐徳堂を創り育て、井原西鶴、近松門左衛門、木村兼葭堂、山片蟠桃など数多くの文学者や町人学者を世に送り出した。その文化的風潮の流れの中で、「大阪図書館」は開館した。その、文化的風潮を受け、開館当初から、新聞社、出版社、財界人、学者、文化人、個人篤志家から図書寄贈が相次ぎ、又、その資料の大半は和漢洋の古典籍が占めていた。館も読み物や研究書だけでなく、原典資料の収集に力を注いだ。

この伝統は、大正、昭和、平成へと受け継がれ、今や中之島図書館の和漢の古典籍コレクションは日本屈指を誇っている。

当館所蔵の貴重書および特別文庫から…



『百万塔陀羅尼』

神護景雲4(770)年製。1基1巻。開版年代の明らかな印刷物としては世界最古。藤原仲麻呂の乱平定後、称徳天皇が戦没者の冥福を祈るために作らせたもので当時十大寺に分納されたが、現存は法隆寺のみである。



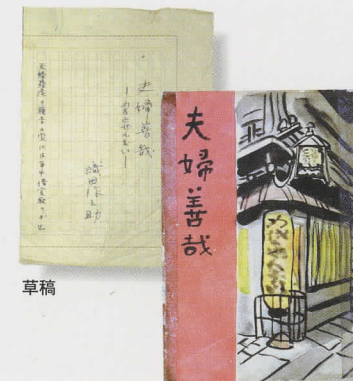
『(正平版) 論語』

魏の何晏集解。正平19年(1364)刊。10巻(欠巻5・6)4冊。貿易港として栄えた堺では、はやくから書物の刊行がはじまったが、本書はその最初のもので、道祐居士の刊行。所掲本は初刻本で、本館以外に所在が明らかな初刻本は、書陵部蔵の巻3・4のみである。



『世間胸算用』

井原西鶴著。元禄5年(1692)刊。5巻5冊。浮世草子。20話からなる町人物。大晦日という時間的限定の下に、町人の経済生活の諸相を描く。



草稿

『夫婦善哉』

織田作之助(1913-47)著。『夫婦善哉』は作之助の出世作であり代表作となるもので、大阪の下町に生きる人々の哀愴を描いた短編小説。

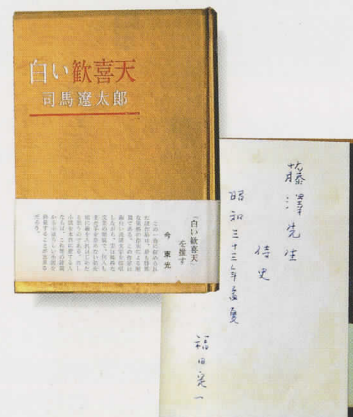
『夢の代』

山片蟠桃(1748-1821)著。蟠桃は大名貸で名高い升屋の番頭をつとめ、また懐徳堂の中井竹山、履軒に儒学を、麻田剛立に天文学を学んだ。内容は天文・地理・歴史など多岐にわたり、地動説に基づく壮大な宇宙論や、無鬼(無神)論など、徹底した合理主義思考を展開している。



『七夕』

奈良絵本。3冊。奈良絵本は室町末期から江戸前期にかけての絵入古写本で、奈良絵とよばれる挿絵をもつ。本書は七夕の由来伝説で、近世中期の写しである。



『白い歓喜天』

司馬遼太郎(1923-96)著。司馬遼太郎としての処女作、昭和33(1958)年凡凡社刊。本書は藤沢桓夫氏に献呈されたもので、本名福田定一の自筆署名がある。

中之島今昔物語

図書館の所在地中之島は、堂島川と土佐堀川に挟まれた細長い島である。古くから浪花名所の代表にあげられ、今日にいたるまで大阪の中心として人々の心の拠りどころとして親しまれてきた。その中之島の変遷を錦絵や写真によってたどってみたい。



(難波橋の風景) / 甲斐-32



(中之島公園風景) / 枚-12

江戸時代

秀吉の時代に淀屋の元祖、淀屋常安によって開発された中之島の地は、江戸時代には、水運の便のよさから国元の物産を大阪に送って売りさばくため、諸藩の蔵屋敷が数多く建ち並ぶようになった。また近辺には大阪の三大市場である堂島米市場、天満の青物市場、雑喉場魚市場が繁栄をきわめていた。難波橋のあたりは庶民にとっては絶好の行楽地でもあり、夏になると人々は大川端へ出かけ、夕涼みや舟遊びを楽しむ納涼客をあてこんだ出店もでてたいへんな賑わいであった。



浪速天満祭 甲斐-114
初代歌川国貞の門人、五雲亭貞秀画。川と近景の難波橋を上空より見下ろす視点から、川幅いっぱいに多数の渡御船、橋上には踊る人々、左には遠く城と天満橋、中景に天神橋の全体等々が、巧みに描き込まれている。



蛸の松 378-536
中之島の久留米藩蔵屋敷前(大阪大学医学部跡地)の堂島川河畔にあった松の大樹で、「枝葉繁茂し四面に垂れあたかも蛸の如し」といわれ神木とされていたが明治時代に枯折した。

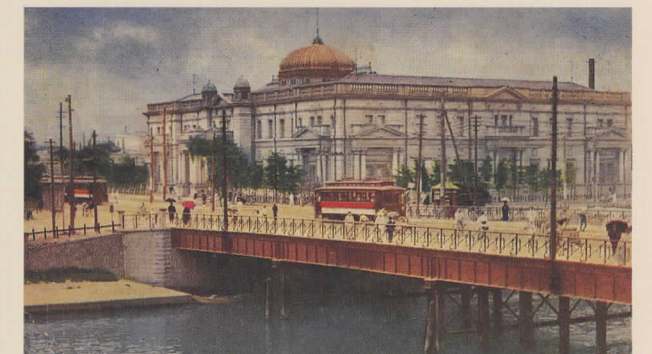
明治

[1868-1912]

明治になると廃藩置県の結果、蔵屋敷地は一般に払い下げられて姿を消し、廃墟のように荒涼たる光景で昼間でも追いはぎが出没する有様であったと伝えられる。しかし難波橋の北半分が鉄橋化された明治9年頃から、山崎鼻と呼ばれた中之島の東端が延伸され植栽がすすめられたのを手始めに、明治12年には豊国神社が、17年には西南戦役の記念塔が建てられて、一帯は次第に公園としての体裁が整えられていき、のちの中之島公園建設の出発点となった。正式に認可を受けて中之島公園となったのは明治34年のことである。



大阪ホテル 378-515
木造三階建。第五回内国勧業博覧会開催前年の明治35(1902)年に新築され最新の設備を誇ったが、火事で消失した。



日本銀行大阪支店 291.63-1068 N-1-27
明治36年築、辰野金吾設計、葛西万司・長野宇平治工事主任。煉瓦・石造。東京駅の設計者辰野金吾の作品でネオ・ルネサンス風の、明治後半期の代表的な建築。昭和57年建替え工事により外観外壁のみ保存された。

中之島図書館 のあゆみ

明治37(1904)年3月1日
開館開始

明治39(1906)年
「大阪府立図書館」と改称

明治41(1908)年
館外貸出制度実施(有料)

大正11(1922)年
本館左右両翼増築

昭和2(1927)年
巡回文庫開設、府内町村に図書を配布

昭和16(1941)年
写真複写サービスを開始

昭和20(1945)年
重要資料、貴重資料の疎開を開始(21年引揚)

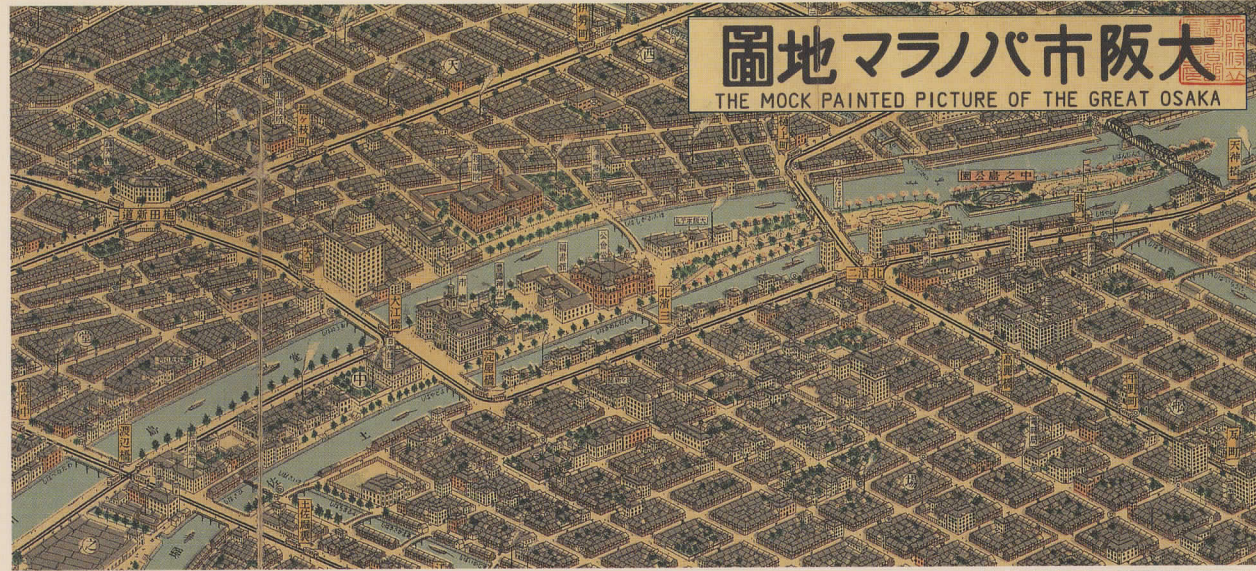
昭和24(1949)年
開架式閲覧制度の一部採用、8000冊を開架

昭和25(1950)年
天王寺分館開館

昭和26(1951)年
閲覧料の全面廃止

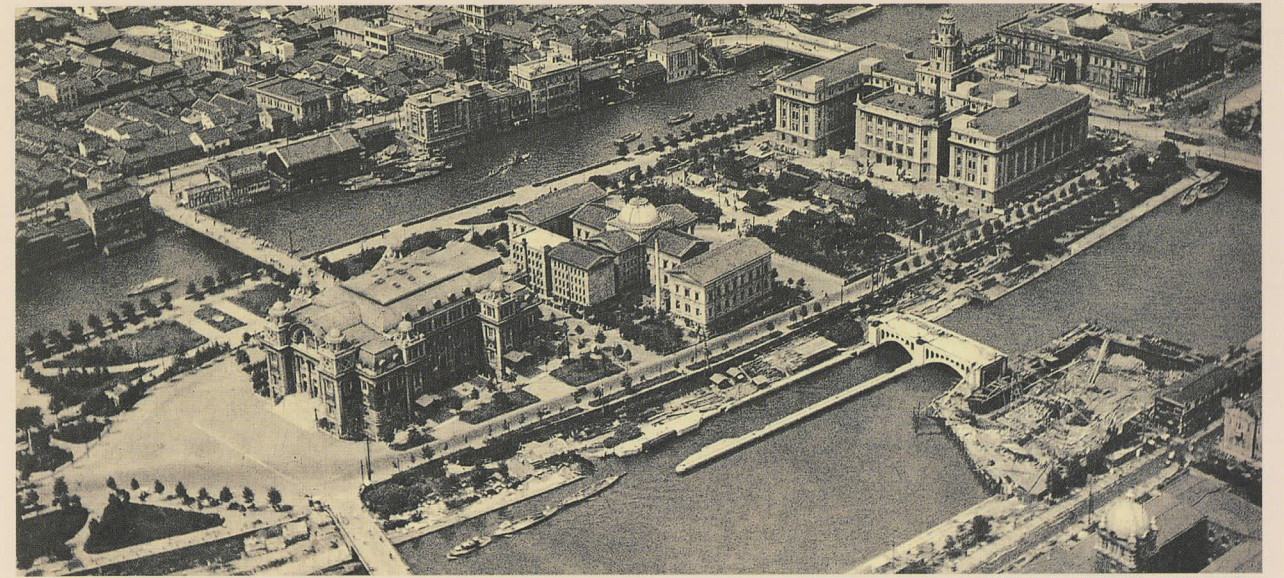
昭和28(1953)年
商工図書室の設置

昭和31(1956)年
別館商工資料室を増築



大正時代の中之島周辺
THE MOCK PAINTED PICTURE OF THE GREAT OSAKA

(大正時代の中之島周辺) / 378-53

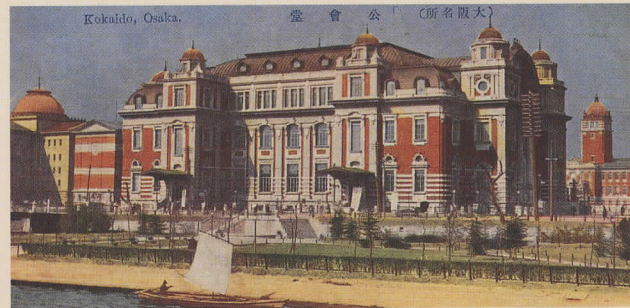


(昭和の中之島周辺) / X291-256N

大正

【1912-1926】

明治30年代から大正時代にかけて中之島の周辺には洋風の名建築が競うように建てられた。明治期の建物では、日本銀行大阪支店(明治36)、中之島図書館(明治37)、旧大中証券(明治45)などが今も残っているが、大正期の代表的な建築としては中央公会堂(大正7)があげられる。その華やかな美しさは明治期の建築とは一味違った新鮮さを感じさせる。



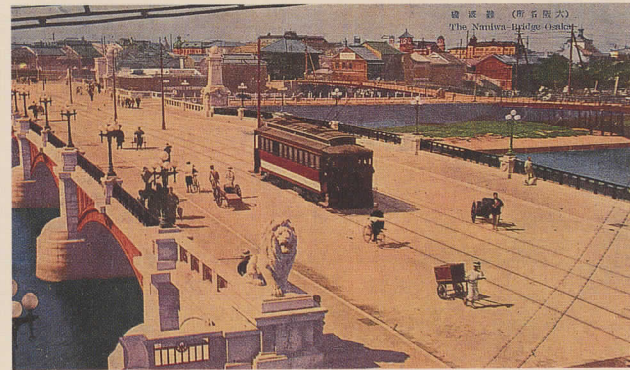
中央公会堂 378-1085-1-45

大正7年築、辰野片岡建築事務所設計(岡田信一郎原案)、煉瓦造・石造・鉄骨。公会堂としては2代目の建物で、株式仲買人岩本栄之助氏の寄付により建設された。設計は明治45年岡田信一郎の懸賞競技応募案に基づき辰野金吾、片岡安らが完成させた。岩本氏は事業に失敗し竣工前の大正5年10月自決したが、この建物は正面の華麗なアーチが目を引く中之島の名建築である。平成14年秋保存のための工事が完了した。



大阪市役所 378-1085-2-72

大正10年築、大阪府庁臨時建築部設計(小川陽吉原案)、鉄筋コンクリート造。大阪府庁舎としては3代目にあたり、明治45年のコンペで選ばれたもの。官庁建築らしい威厳のある建物で地上から約52mの塔屋は当時市内で最も高かった。現庁舎に建替えのため昭和57年に解体された。



難波橋 378-1085-2-29

大正4年完成、大阪市電気鉄道部設計、鉄骨鉄筋コンクリート造。堂島川・土佐堀川にかかる橋で四隅の親柱上の石造ライオン像にちなみライオン橋とも呼ばれる。昭和50年に改修された。

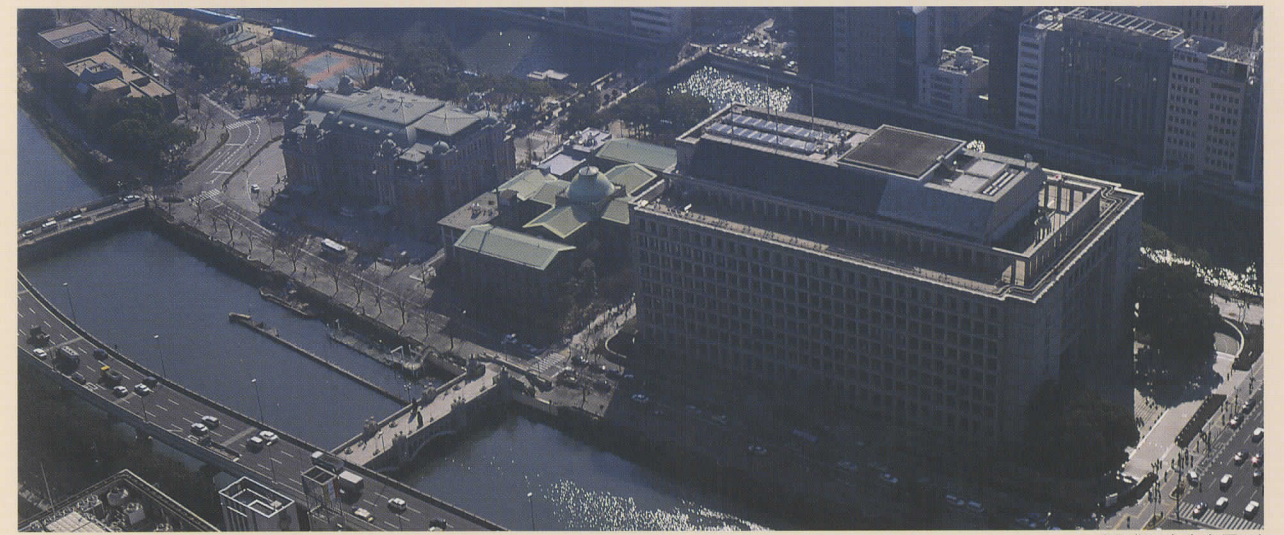
昭和/平成

【1926-1989】

【1989-】

昭和に入ると、水晶橋(堂島川可動堰)が河川浄化のための水門として昭和4(1929)年に完成。昭和8年には地下鉄御堂筋線が完成し梅田、心斎橋間で運行を開始。御堂筋は昭和10年に完成した。昭和20年の初めの頃、堂島川はまだ水泳ができる川だったという。昭和

初期から戦後、そして現在に至るまで中之島周辺の景観は変貌し続けている。その変化の中で昭和49(1974)年5月21日、中之島図書館の本館と大正11年に建設された左右両翼の三棟が国の重要文化財に指定され、明治の名建築は保存されることとなった。時は遷り、いま中之島とその周辺は明治、大正、昭和、平成それぞれの時代を映す建物が立ち並ぶ大阪の名所の一つである。平成8(1996)年、中之島図書館は大阪資料・古典籍を中心とした図書館に変わり、さらに100年目の今年にはビジネス支援機能を加え、新たな出発の時を迎えている。中之島の百年を見続けてきた中之島図書館。美しいドームを持つ建築は、これからも中之島地区のシンボルとして永く時を刻んでいくことであろう。



(平成の中之島周辺)

昭和37(1962)年 我国初の主題別開架閲覧制度を導入

昭和47(1972)年 冊子体目録「大阪府立図書館蔵書目録」全16巻完成

昭和49(1974)年 大阪府立中之島図書館と改称(天王寺分館は大阪府立夕陽丘図書館に)本館・左右両翼の3棟が国の重要文化財に指定/商工資料室を夕陽丘図書館に移管

平成2(1990)年 新取圖書のコンピュータによる集中整理が始まり、分類体系にNDC分類を採用

平成5(1993)年 「大坂本屋仲間記録」全18巻が完成蔵書のコンピュータによる選及入力開始

平成7(1995)年1月17日 阪神淡路大地震のため書架倒壊(→1月22日まで休館)

平成8(1996)年5月 リニューアルオープン/大阪関係及び古典籍中心の図書館となる(大阪府立中央図書館が東大阪市にオープン)カード目録は古典籍等一部を除いて廃止/貸出返却等もコンピュータによる運営に

平成10(1998)年 記念室天井より当館建設当時の棟札発見(平成11年に国の重要文化財に追加指定)

平成11(1999)年3月 大和銀文庫基金設立、近世を中心とした資料収集開始

平成16(2004)年2月末 開館100周年

水都の抒情、商都の精華を感じる中之島散歩



近代建築

- | | | |
|---------------------------|------------------------|---------------------|
| ① 正和・伏見法律事務所 [明治頃] | ⑬ 新井ビル [大正11年] | ⑲ 大阪ガスビル [昭和8年] |
| ② 北浜レトロビル [明治45年] | ⑭ 岡三証券 [昭和10年] | ⑳ 小川香料 [昭和5年] |
| ③ 大阪証券ビル [昭和10年] (建替中) | ⑮ 三井住友銀行大阪中央支店 [昭和11年] | ㉑ 武田薬品工業 [昭和3年] |
| ④ 石原ビル [昭和10年] | | ㉒ 日本短資ビル [大正9年] |
| ⑤ ミズノ [昭和2年] | ⑯ 高麗橋野村ビル [昭和2年] | ㉓ イトーキレビオビル [不明] |
| ⑥ 三井住友銀行大阪本店 [大正15年～昭和5年] | ⑰ 日本生命北浜ビル [昭和12年] | ㉔ 生駒ビル [昭和5年] |
| ⑦ 大阪倶楽部 [大正13年] | ⑱ 八木通商 [大正6年] | ㉕ みずほ銀行堺筋支店 [大正15年] |
| ⑧ 旧大阪市立愛日小学校 [昭和4年] | ⑳ 旧大中証券 [明治45年] | ㉖ 船場ビル [大正14年] |
| ⑨ 日本生命保険 [1期 昭和10年] | ㉑ 日本基督教団浪花教会 [昭和5年] | ㉗ 清水猛商店 [大正12年] |
| ⑩ 大阪市立愛珠幼稚園 [明治34年] | ㉒ 伏見ビル [大正12年] | ㉘ 綿業会館 [昭和6年] |
| ⑪ 適塾 [18世紀末] | ㉓ 青山ビル [大正10年] | ㉙ 鹿児島銀行大阪支店 [昭和初頭?] |
| ⑫ 中村健太郎法律経済事務所 [昭和13年] | ㉔ コニシ [明治36年] | ㉚ 明治屋ビル [大正13年] |
| | ㉕ 芝川ビル [昭和2年] | |
| | ㉖ 銭高組分室 [明治21年頃] | |

史跡・記念碑

- A 木村長門守重成表忠碑**
重成は大坂冬の陣、夏の陣で活躍した。この表忠碑は明治29年(1896)に建立。
- B 大阪銀行集会所・大阪銀行協会跡**
この地は大阪最初の洋風料亭自由亭ついで大阪ホテルが営業していたが、ホテル内に間借りしていた大阪銀行集会所も

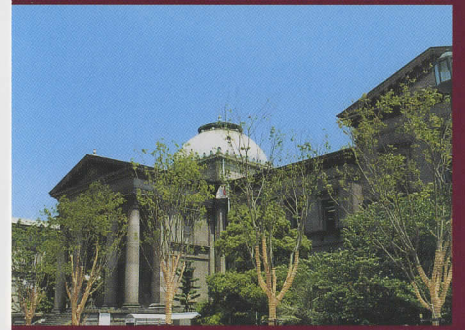
ともに大正13年(1924)焼失、昭和20年(1945)社団法人大阪銀行協会が当地に設立された。

- C 関一像**
第7代大阪市長、在職中市域拡大、市バス地下鉄の運行、御堂筋拡張など大きな業績を残した。

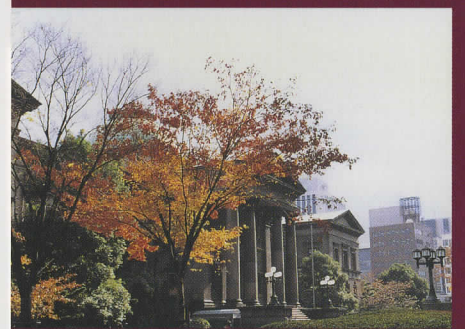
- D 三好達治文学碑**
明治33年(1900)西区生、昭和39年(1964)没。詩集「測量船」「一点鐘」など。
- E 大阪通商会社為替会社跡**
明治2年(1869)創立。当時銀目廃止や御用金負担などで豪商は没落、大阪の金融は逼塞混乱していた。政府は商業振興のための政府金融機関として通商司大阪支署を設置、その指導で商業目的の通商会社とそれに資金を供給するための為替会社をつくらせた。
- F 大阪裁判所址**
この碑は明治10年(1877)の天皇臨幸を記念し、大正14年(1925)に建てられた。裁判所は明治23年に対岸の若松町に移転した。
- G 駅通司大阪郵便役所跡**
明治4年(1871)、前島密らにより新式郵便が施行されこの地に郵便役所が設けられた。
- H 大阪会議開催地**
明治8年(1875)、大久保利通、木戸孝允、板垣退助らが明治維新新政府強化のため大阪会議を行った。
- I 天五・平五十兵衛横丁**
近世の有力両替商十人両替のうち天王寺屋五兵衛と平野屋五兵衛がこの地に店を構えていたので俗にこう呼ばれた。
- J 大阪金相場会所跡**
近世、全国の標準とされた金銭相場の立会は寛保3年(1743)以後この場所で行われた。
- K 大阪俵物会所跡**
干鮑、いりこ、ふかひれ等海産俵物流通の拠点であり、安永6年(1777)この地に移された。
- L 淀屋敷跡**
近世初め中之島の開発他、大阪の発展に貢献した淀屋の屋敷跡は大川町にありその名は今も淀屋橋に残っている。
- M 林市蔵記念像**
米騒動のあと社会保障制度の立ち遅れを克服するため大阪府知事林市蔵が方面委員(民生委員の前身)制度をつかった。
- N 松瀬青々生誕地**
明治2年(1869)大川町生まれ。明治大正昭和初期の関西俳壇を指導した。俳誌「倦鳥」主宰。
- O 手形交換所発祥地**
第一銀行頭取渋沢栄一の提唱により明治12年(1879)12月「大坂交換所」が日本最初の手形交換所として開設された。
- P 帝国座跡**
日本最初の純洋風劇場として、明治43年(1910)オッペケペー節で知られる川上音二郎により建てられた。
- Q 銅座跡**
近世銅の精錬と売買はこの銅座で総括していた。銅座制度は明和3年(1766)から維新まで続いた。
- R 除痘館跡**
牛痘種痘を行う場所として緒方洪庵が中心になり嘉永2年(1849)古手町(道修町)に開設。万延元年(1860)この場所に移った。
- S 大阪商法会議所跡**
明治11年(1878)8月五代友厚らにより大阪商法会議所(大阪商工会議所の前身)が創設された。
- T 御霊神社御霊文楽座跡**
植村文楽軒の子孫による人形浄瑠璃経営の最後の拠点となったのが御霊文楽座である。明治42年(1909)松竹合名会社に譲渡、大正15年(1926)に全焼した。
- U 泊園書院跡**
泊園書院は儒者藤沢東咳が文政8年(1825)に開いた私塾。明治9年(1876)嫡子南岳により再興された。



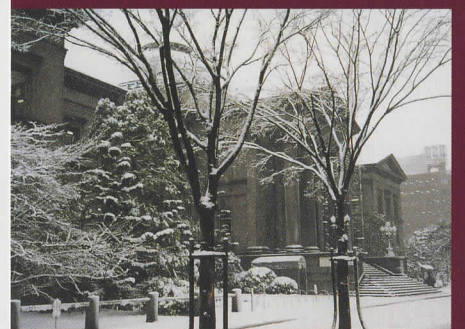
Spring ● 春



Summer ● 夏



Autumn ● 秋



Winter ● 冬

中之島図書館の四季

それぞれの季節、大阪ならではの大切

明治37年前後の日本と世界の出来事年表

日本

世界

明治36 (1903) 年

- 夏目漱石、ロンドンから帰国 (1月)
- 大阪で開かれた第五回勸業博覧会で日本初のウォーターシュートが登場 (3月)
- 東京と大阪に中央郵便局、電話局が設置される (4月)

- ピューリッツァー賞創設 (4月)
- アメリカ、フォード自動車会社設立 (6月)
- ライト兄弟初飛行に成功 (12月)
- イギリス、ウエストミンスター大聖堂完成

明治37 (1904) 年

- 大阪朝日新聞で「天声人語」始まる (1月)
- 日本、ロシアに宣戦布告 (2月)
- 大阪図書館開館 (2月25日)
- 黒岩周六、かるた会を作り競技会開催 (2月)
- 内務省、肺結核予防令公布 (2月)
- 曾我廼家五郎・十郎が浪花座で旗揚げ (2月)
- 押川春浪、博文社に入社 (3月)
- 煙草専売法が実施、敷島8銭、大和7銭 (4月)
- 全国の小学校で国定教科書が使用開始 (4月)
- 二葉亭四迷、朝日新聞社入社 (4月)
- 森鷗外は軍医として、田山花袋は従軍記者として日露戦争に従軍 (4月)
- 島崎藤村が「破戒」を書き始める
- 京都駅で駅弁の立売が始まる (6月)
- 石川啄木のペンネームで雑誌「明星」に登場 (12月)
- 子供の遊びに「戦争ごっこ」流行
- 婦人髪で花月巻、二〇三高地が流行
- 千人針の風習が始まる
- 大阪・千日前に公設の有料便所が設置される。使用料1銭
- 万歳が大流行。日露戦争の勝報ごとに提灯行列と万歳三唱が行われる

- チェーホフ「桜の園」初演 (1月)
- ブッチーニのオペラ「マダム・バタフライ」(蝶々夫人)がミラノ・スカラ座で初演 (2月)
- パナマ運河工事開始 (2月)
- イギリスでロールス・ロイスの第1号が完成 (4月)
- オーストラリアで世界初の労働党内閣が成立 (4月)
- アメリカ大リーグ、ボストン・レッドソックスのサイ・ヤングが初めて完全試合を達成 (5月)
- 国際サッカー連盟 (FIFA) 設立 (5月)
- オリンピック・セントルイス大会開催、10カ国・595人参加 (7月)
- ロシア、シベリア鉄道8,314km開通 (7月)
- アメリカ、セントルイス万国博覧会開催 (7月)
- イギリスで児童虐待防止法成立 (8月)
- アフガニスタン、イラン国境確定 (9月)
- ルーズベルトが大統領に当選 (11月)
- 「ピーター・パン」ロンドンで初演 (12月)
- ロシアの生理学者バブロフがノーベル生理学・医学賞受賞 (12月)
- フレミング (英) が二極真空管を発明
- ニューヨークの喫茶店主トーマス・サリバンがティーバックを開発
- ドイツ帝国議会、児童労働の禁止を家内工業にも拡大する児童法案可決

出版 児玉花外「花外詩集」 与謝野晶子、寛「毒草」
押川春浪「武俠艦隊」

誕生 武田 麟太郎 藤沢 桓夫 長沖 一 長谷川 幸延
榎本 健一 片岡 千恵蔵 木山 捷平 桑原 武夫
幸田 文 佐多 稲子 千田 是也 富田 常雄
永井 龍男 南部 忠平 橋本 明治 舟橋 聖一
堀 辰雄 山岸 外史 吉川 幸次郎

出版 ロラン「ジャン・クリストフ」 チェーホフ「桜の園」
ヘッセ「郷愁」

誕生 鄧 小平 巴金
ビング・クロスビー ボブ・ホープ
ジョニー・ワイズミュラー ジョージ・ガモフ
アレクセイ・コスイギン グレアム・グリーン
サルバドール・ダリ ジョン・オッペンハイマー
ジャン・ギャバン カウント・ベシー
ウラディミール・ホロヴィッツ ケーリー・グラント

明治38 (1905) 年

- 大阪時事新報創刊 (3月)
- 難波駅前の旧パノラマの跡地に、日露戦争のパノラマ館がオープン。直径16間の円形。洋画家鹿子木孟郎が主任で絵を制作 (8月)
- 大阪瓦斯が開業、市内に初めてガスを供給 (10月)
- 青年の間にシルクハットが流行
- 女学生の自転車通学が流行

- インド北部で大地震 (4月)
- パリのムーランルージュでマタハリがデビュー (5月)
- 戦艦ポチョムキン反乱 (6月)
- アインシュタインが「特殊相対性原理論」を完成
- クリルが、初めて輸血を行う
- コッホ (独) 結核の研究でノーベル生理学・医学賞受賞

出版 上田敏訳詩集「海潮音」 夏目漱石「我輩は猫である」

誕生 福田 赳夫 木村 義雄 織田 幹雄 辰巳柳太郎
成瀬 三喜男 円地 文子 平林 たい子 原 民喜
島田 正吾 椋 鳩十 臼井 吉見 伊藤 整

出版 ヘッセ「車輪の下」 ワイルド「獄中記」

誕生 ティオール サルトル ヘンリー・フォンダ
エドガー・スノー グレタ・ガルボ



大阪府立中之島図書館 100周年記念

発行日：平成16年2月29日

発行

大阪府立中之島図書館

〒530-0005大阪市北区中之島1丁目2番10号

TEL.06-6203-0474 (代表)

編集・制作

富士精版印刷株式会社

このパンフレットは、大阪府立中之島図書館100周年記念事業の一環として、
富士精版印刷株式会社の全面的なご協力により、作成いたしました。